

sapporo education and culture hall news

Raku



## INTERVIEW

Director of the Sapporo education and culture hall

札幌市教育文化会館館長インタビュー  
「特集」  
市民に利用されてこそ  
の教文です。

開館以来連綿と引き継がれる教文の強みは「地域密着型」の文化施設であること。  
教文が大切にしていることについて、常野館長に語っていただきました。

当館の良い点であり、大きな特徴でもあるのは、市民の芸術文化活動の発表の場として使われることが非常に多いことです。私どもとしても、市民に利用されこそその教文という思いのもと、万全のサポート体制を整えるなど借りやすさを第一に運営しています。専門スタッフが利用者さんと事前に何度も打ち合わせをして、一緒に良いステージを作り上げていくところも自慢できる点です。部屋やホールを貸すということは、貸せなかつた1日分を翌日まとめて貸すことができないという意味では、生ものを扱う商売と同じ。難しい経営ですが、ホスピタリティの充実を図ることで、当館の利用率は80%を上回ってきました。同規模のホール利用率の全国平均が約67%なので、かなり高い方です。繰り返し使っていただいているお客様も多く、地域密着度が高いところも43年運営してきた強みと言えます。新型コロナウィルス感染症さえ現れなければ…という思いはあります

教文が大切にしている3つの軸をご紹介します。ぜひ足を運んでみてください。

### 空間

空間を演出することで幅広い方により楽しんでいただくことをコンセプトに、和文化プロジェクトとして、伝統芸能公演時の趣向を凝らした展示・演出や、1階ロビー装飾を実施しています。



和文化プロジェクト

### 鑑賞

伝統芸能公演での安価な「立ち寄り」チケットや、日本の演劇界を代表する豪華ゲストを審査員に迎えて道内外の劇団が競い合う「短編演劇祭」など、質の高い作品を気軽に見てもらう工夫もしています。



演劇フェスティバル

### 体験

鑑賞して知った後に「自分でもやってみたい」と感じた方々に向けては、演劇フェスティバル等でのWSをはじめ、能楽やダンス等さまざまなWSを開催し、体験の機会を創出しています。



ワークショップ

### Profile

#### 常野 正浩

Tsuneno Masahiro

1982年、市役所に勤務。経済局、まちづくりセンター、札幌市立大学事務局などを経て、2018年に札幌市教育文化会館館長に就任。

## INTERVIEW

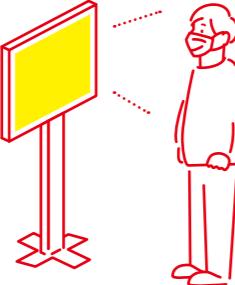
Director of the Sapporo education and culture hall  
Tsuneno Masahiro



## 感染対策



密な状況をつくりない、  
開場時の工夫。



体温を自動測定する「サーモグラフィー」を導入し、スムーズな入場が可能に。チケットはスタッフに見えるようお客様ご自身で半券を切り取り、回収箱へ。チラシ、プログラムなどの手渡しもせず、所定の場所からお客様ご自身でお持ちいただきます。従来とは違う手順での入場となります。スタッフが随所でご案内しているのでご心配なく。お時間に余裕を持ってご来場くださいませ。



## 感染対策



終演後は分散退場。  
客席椅子やカウンター等の除菌清掃。



終演後は、混雑防止のため座席ブロック毎の分散退場を実施しています。客席やロビー椅子、カウンター、トイレは利用後にしっかりと除菌清掃。2回公演の場合は、公演の合間に客席椅子の除菌清掃を行っています。また、ホールだけでなく、各種研修室・リハーサル室等の除菌清掃も徹底しております。



## お客様の声

10月に上演した『人形浄瑠璃 文楽』と、11月に上演した『真夏の夜の夢』での来場者WEBアンケートから、新型コロナウイルス感染予防対策に関する声をご紹介します。

観客席も一席ずつ空けるなど、コロナ対策を工夫していた。案内の方々も親切だった。休憩中のトイレのアナウンスも、客が分散できるようにわかりやすくされていた。

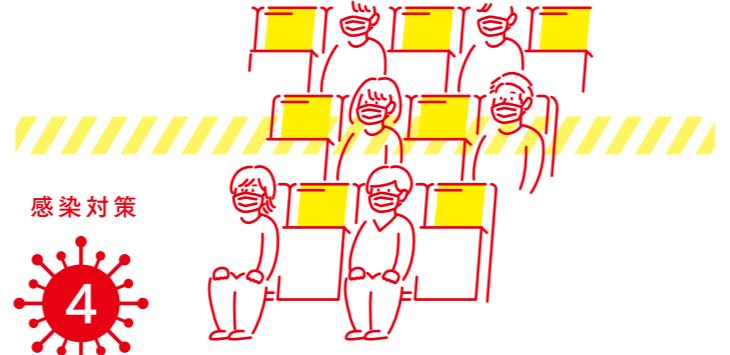
このような状況下で観劇出来たこと大変嬉しく思います。スタッフの皆様も大変気を使っていただき、安心安全の観劇ができました。

コロナ対策がきちんと徹底されており安心して観劇することができました。何度か利用させていただいたことはありますが、館内もとても綺麗で舞台設備の整った施設ですので、市内には老朽化等で取り壊された施設もいくつかありますが、市民としてはこれからもずっと残していただきたい場所です。

## 感染対策



館内の空調調整で  
感染リスクを低減。



客席は一席ずつ空けて、  
距離を保って観劇。

ホール客席は一席ずつ空けて座れるように、つぶし席には専用の布カバーが掛けられています。大小ホール合わせて780枚ものカバーは、舞台保守事業者さんの手作りです。ホール内の換気も万全にしていくため、上演中も安心してお過ごしいただけます。どうぞリラックスして、素晴らしい舞台をお楽しみください。休憩のある公演では、トイレの分散利用を実施しています。

※今後の感染状況や公演内容によっては、1席空けずに開催する場合もございますので、ご来場前に主催者様へご確認下さい。



## 感染対策



接客を行う場所には  
飛沫感染予防シートを設置。

教文プレイガイドやもぎりカウンター等、お客様と接する場所には飛沫感染予防シートを設置。プレイガイドは清掃さんその他、プレイガイドスタッフさんがこまめに除菌清掃を行い、店頭に並ぶグッズも可能な限り除菌。お客様が購入される際は、バックヤードの在庫から優先的にお渡ししています。これまで施設に集まり抽選を行っていた施設利用の一斉受付は、完全オンライン化。現在は郵送、FAX、メールにて申請いただいています。

## 新型コロナウイルス感染予防対策

安心・安全に観劇を楽しめる  
教文の取り組み

教文では、コロナ禍でも安全に、安心して施設を利用・観劇していただくために、スタッフが一丸となって感染予防対策に取り組んでいます。来館されたお客様の声も交えてご紹介します。



## 感染対策



共通スペースはこまめに  
除菌清掃を行い、来館者をお迎え。

エレベーター各階ボタン、階段手すりなどは1日3回以上除菌清掃。トイレもレバーや便座等手に触れるところを中心に、1日3回程度の除菌清掃を実施。研修室もドアノブや机、椅子、電気スイッチ等は使用後に除菌清掃し、マイクなどの備品類も消毒後に収納しているので、安心してご利用いただけます。また手指消毒用として、施設の複数箇所に消毒液を設置しています。





# 教文和文化巡り

## 第6回 ほうきのアトリエと本の店「がたんごとん」

伝統芸能とともに日本の文化の魅力を気軽に体感してもらう「和文化プロジェクト」。連載6回目は、ほうきのアトリエと本の店「がたんごとん」をご紹介します。



## ほうきのアトリエと本の店 「がたんごとん」

札幌市中央区南1条西15丁目1-319  
シャトールレーヴ 605号  
tel.011-522-9681  
営業時間／金・土・日12:00～17:00  
不定休  
(公式サイトの営業日カレンダーをご確認ください。)  
<http://patan-goton-shop.com/>

## 詩情豊かに暮らすたは 道具と詩歌に出会う

昔ながらの中津箒と、短歌や俳句など詩歌を中心とした書籍を揃えるお店。明治時代から神奈川県の特産品として製造された中津箒は、生活様式の変化や大量生産型の安価な箒の出現により一度途絶えますが、2003年に「株式会社まちづくり山上」が復活させ、工芸的な価値の高い箒を作り上げる職人のもと吉田さんをはじめとする若手職人を育成し注目を集めます。札幌に移住後奥様の茜さんがオーブンさせた「たんごとん」のコンセプトは、「生きるために必要な道具」と「詩歌」。丁寧な手仕事による暮らしの道具や詩歌が持つ「身体で感じ、心を動かす」詩情は、今自分が生きるこの世界との関係を探求するために不可欠なものという思いが込められています。書籍コーナーには「今を生きている人たちが詠む」最前線の現代短歌、現代俳句現代川柳がズラリ。短い日本語で思ひもよらぬ世界へ想像力を飛ばしてくれるのが、短詩系文学の魅力。入門に最適なアンソロジーも出版されており、きっと好きな作家を見つけるられるはず。装幀も凝ったものが多く、プレゼントにもオススメです。

# SAPPORO ENGEKI no WA

村上 義典さんから指名

## [プロフィール]

能登 苗舎

Eisuke Noto

1003年の旗揚げ

属。yhsの他には、イレブンナイブンプレゼンツ dEBoo#1『12人の怒れる男』や信山プロデュース『噂の男』等、外部団体の舞台にも出演。近年は毎週月曜日23時からツイキャス「のと☆えれき」やYouTube「のと☆えれきチャンネル」等、舞台以外にも活動の範囲を広げている。



### 〔次回出演情報〕

札幌演劇シーズン2021-夏  
ラボチプロデュース・のと☆えれき

『私の名前は、山田タロス。』

日程未定

——能登さんが演劇から得ているものとは？

普段経験しない感情の動き方はさせてもらっていますあと、正解がないからずっと続けられるとは昔から思っています。役者は考え続けるといけない仕事で、どんなにやつても満足することがない。ただ、僕は失敗を恐れるあまり、何かしらの正解を求めてしまうところもあって。稽古では自分が不自然だと思う演技も取り入れて失敗を経た方が、何かしらの幅につながるんじゃないかなと最近思い始めたところです。